



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 98

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 98. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1960, 98: 47-52

ISSUE DATE:

1960-11-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186949>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No. 98

1960. 10月(11月5日)

録 事

10月5～7日 京大友近理学部長・山本技術課長・宮谷理学部事務長は水槽室増築最終案打合わせのため来所。

10月6日 県道に沿うた臨海南海岸を埋立てモータープール新設と遊路拡張案について隣接地の一部使用許可申請の打合わせのため所当局より岩城助役・北尾観光課長・山口町議会観光常任委員長来所。

10月8～12日 布施委員は秋田県八郎潟干拓地の生物調査のため出張。

10月11日 みさき公園水族館の荒賀忠一技師魚族採集のため来白し、同地産アカヒトデとオノミチキサンゴの生体を寄贈された。

10月15～18日 内海・山路両委員(16～18日)時綱委員(18日)は、関西学院大学で開かれた第31回日本動物学会大会に出席。

10月19～26日 山路委員は引きつづき多奈川発電所取水路の付着生物調査のため出張。

10月27～31日 布施委員・高松研究員は中海方面へ魚族の潜水調査のため出張。

本月より発売の“海の生物生態享宴絵はがきH0.3”の内容は 1. ホアジの群泳, 2. ウミシタ類, 3. コウイカ, 4. ウミウシ類, 5. ゴシキエビ, 6. エボシガイ, 7. イバラカンザシ, 8. サンゴイソギンチャクとクマノミの共生の8枚組で、山路委員の水槽内での撮影、内海委員の綿集校正による。

業 務 概 況

◎ 10月入場者数

区 分	大 人		小 人		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
水族館発売 個人	11317	60485	185	4902	11502	65387
団体	25802	139174	—	—	25802	139174
交通公社発売	14752	53553	—	—	14752	53553
明光バス発売	25407	148200	157	6035	25564	154235
合 計	77278	401412	342	10937	77620	412349
無 料	京都・大阪大学附属他				109	1044

団 体 : 一般 400組, 学生 36組 合計 436組

◎ 10月の事業収入 (今年度累計)

観光券売上金	1,129,580	6,976,448
窓 口 売 上	640,838	3,481,507
交通公社クーポン	200,482	877,891
明光バス観光券	288,260	2,617,050
※		
予金・積立金利子	—	332,885
手 数 料	46,559	334,964
絵はがき拂 下	17,690	187,240
パンフレット拂下	1,920	56,340
魚 類 拂 下	—	200
雑 収 入	80	3,885
合 計	1,195,829	7,891,962

※ 明光バス観光券未収分 大人券 27566枚

小人券 171枚

◎ 10月の支出

水族館経費

費 団	金 額	累 計	備 考
人 件 費	116,412	813,846	
会 議 費	4,990	115,854	
備 品 費	38,750	303,260	ヘルメット潜水機用電話機
消 耗 費	44,253	199,590	アクアラング修理用部品他
事 業 費	38,458	312,376	
維 持 費	27,538	51,368	
其 他諸経費	55,317	478,677	
積 立 金	275,251	1,504,958	
合 計	600,969	3,779,229	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	16,322	99,083	内海・山路要員
奨 学 金	—	60,000	
備 品 費	—	141,215	
消 耗 費	—	—	
刊 行 費	—	907,560	
役 務 費	—	123,370	
合 計	16,322	1,331,948	

伝物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	55,300	313,189	
備 品 費	24,000	25,200	パン4カード穴あけ機
消 耗 費	—	2,350	
役 務 費	—	8,980	
合 計	79,300	349,719	

臨 時 費

摘 要	金 額	累 計
海の生物生態写真集はがき第3集	300,000	
水族館建築に関する推進費用	71,358	
図切式プランクトン採集機試作費	8,940	
合 計	380,298	559,116

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	600,969	3,779,929
実験所経費	16,322	1,331,948
伝物館経費	79,300	349,719
臨 時 費	380,298	559,116
合 計	1,076,889	6,020,712

◎ 10月末現在高

前月よりの繰越	1,752,310
今月の収入合計	1,195,829
今月の支出合計	1,076,889
現 在 高	1,871,250

◎ 前年度との比較

	1959	1960	増 減
入 場 者 数	52,543	77,620	+ 25,077

水族館記事

- ◎ イカ漁が盛んになって、今月になってはじめてアオリイカが入槽した。 今月総計 18 個体入槽し、NO.22 水槽に收容している。
- ◎ みさき公園水族館荒賀氏が 11 日に来館、アカヒトデ 14 個体、オノミチキサンゴ 2 群体の寄贈を受けたので早速置水槽に收容し観覧に供している。
- ◎ 23 日に今まではじめて、ネコザメ が 1 個体入槽した。 全長約 95 cm。
- ◎ アオウミガメ を 18 日に購入した。 体重約 15 kg 位で、田辺湾内で採集されたものである。
- ◎ 熱帯魚水槽には、中旬に採集したハタタテ、ソラスズメタイ、購入したカゴカキタイ、チュウチュウオ、カノコウオ 等がはいり、なかなかにぎわっている。 アカマツカサ は先月総計 33 個体入槽したが今月の 11 日迄に、ミギマキ もまた 3 日に全滅した。
- ◎ 9 月 15 日に入槽したエンガラカワハギ 2 個体は、餌につき飼育が出来そうであったが、10 月 21 日の夜に 2 個体とも水槽から突然飛出して死亡した。
- ◎ 9 月 11 日に入槽したハモ は今月中旬（日不明）に死亡。 全長 105 cm。
- ◎ 10 月 31 日現在、観覧水槽に收容飼育中の動物は総計 135 種、1920 個体以上で、その内訳は次の通り。

カイメン類	1 種、	カメノテフジツボ類	2 種、	ヒトデ類	3 種、
ヒドロ虫類	1 種、	エビ類	7 種、	クモヒトデ類	1 種、
ウミトサカ類	2 種、	ヤドカリ類	4 種、	ウニ類	8 種、
ヤギ類	3 種、	カニ類	5 種、	ナマコ類	5 種、
イソギンチャク類	7 種、	ニ枚貝類	5 種、	軟骨魚類	1 種、
イシサンゴ類	8 種、	巻貝類	12 種、	硬骨魚類	48 種、
ハナギンチャク類	1 種、	アメフラシ類	3 種、	カメ類	3 種、
多毛類	2 種、	イカ類	1 種、		
カブトカニ類	1 種、	ウミシタ類	1 種、		

資 料

◎ 10月の気象 (9時観測)

南水槽室 (水温・比重はN0.25水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数 (23)	3	9	11
室 温 (°C)	$\frac{20.9 \sim 24.4}{22.2}$	$\frac{19.9 \sim 22.8}{21.7}$	$\frac{17.8 \sim 20.2}{19.45}$
水 温 (°C)	$\frac{23.73 \sim 24.73}{24.18}$	$\frac{22.32 \sim 24.83}{23.37}$	$\frac{20.21 \sim 22.03}{21.35}$
比 重 (015)	$\frac{24.89 \sim 25.33}{25.11}$	$\frac{24.51 \sim 25.07}{24.83}$	$\frac{24.96 \sim 25.32}{25.19}$

取入口

水 温 (°C)	$\frac{24.21 \sim 25.39}{24.85}$	$\frac{23.38 \sim 25.39}{24.25}$	$\frac{21.43 \sim 23.39}{22.65}$
比 重 (015)	$\frac{24.79 \sim 25.22}{25.14}$	$\frac{24.49 \sim 25.15}{24.93}$	$\frac{25.19 \sim 25.44}{25.35}$

来 訪 録

10月2日 神戸須磨水族館の奥野館員他魚類採集のため来所。

10月8日 京大地球物理学教室の国司助教授は田辺湾江津良井の海上観測塔の位置決定につき、漁業組合および町当局と打合わせのため来所。

10月9日 東京女子医科大学内田昇三教授はイラモ採集のため来所。

10月12日 九州大学教養学部宮本正一氏は海浜半翅類採集のため来所。

10月19～21日 北大内田亨教授はイソギンチャク類の標本調査のため来所。

また北海道学芸大学小林弘氏は兎学のため来所。

10月21～23日 北海道学芸大学尻岸内堀海実験所今島実氏は兎学のため来所。

10月27～30日 大阪市立自然科学博物館千地万造学芸員と京大大学院学生白井孝氏は田辺湾の有孔虫分布調査のため来所。

10月31～11月1日 東海区水産研究所の竹村嘉夫技官と東京都立大学生物学教室の大房剛氏はプランクトン採集のため来所。

正誤

PP. 41 の実験所経費の刊行費累計を 907,560 に訂正

昭和35年11月5日 (NO. 98)

編集兼
発行者

山路 勇

発行所

瀬戸臨海実験所振興会
和可山県 白浜町
瀬戸臨海実験所内
(Tel. 白浜温泉 515)